Ａ－１　本校保健体育科の基本的な考え（１６年度研究紀要より）

保健体育科

自分に適した課題を持ち、実践・評価していける生徒の育成

Ⅰ　生徒の実態

本校生徒は、与えられた学習課題に対してはまじめに一生懸命取り組むが、自ら考え主体的に取り組む学習はやや苦手としている。

関心・意欲・態度については、男子はどの学年も高く意欲的な取り組みが見られるが、女子は学年が上がるにつれ、低くなる傾向があり、個人差も大きい。

思考・判断については、課題づくりや練習方法の工夫など、全般的に苦手としている。

技能については、男女とも学年が上がるにつれ個人差が大きくなっており、球技などでは、一部の生徒だけが活躍するような場面も見られる。

知識・理解についても、個人差や興味・関心による差が大きい。

Ⅱ　研究の内容

1　基本的な考え方

学習指導要領では、ゆとりの中で「生きる力」を育てることが重要視されており、「生きる力」とは、「自分で課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力、そして豊かな人間性やたくましく生きるための健康や体力」とされている。また、平成１５年度の一部改訂では、「基礎・基本の徹底」や「個に応じた指導の一層の充実」などが求められている。

これらのことや本校研究の重点を踏まえ、保健体育科では、基礎・基本の定着を図りながら、教師が用意した学習課題を受動的に実施させる学習ではなく、個々の学習者の学習レディネスの違いや、各人の創意工夫を尊重しながら、個々の学習者が自らの課題を見つけ、その解決に向けて能動的に進めていく学習（課題解決的な学習）を準備することが必要であると考え、「自分に適した課題を持ち、実践・評価していける生徒の育成」を研究テーマとし、学年の発達段階に応じて学習方法や評価方法を工夫しながら、より確かな学び方が身につくように実践を深めていきたい。そして、このことが「生涯にわたって豊かで賢いスポーツライフを営む実践力」につながっていけばと考えている。

2　研究の重点

(1)　学習意欲を高める指導法の検討

①　課題解決型学習の工夫

ア　基本的な考え

自ら考え、主体的に学習に取り組む生徒を育成するために、課題解決学習を中心に据え、学年の発達段階に応じてより豊かな学び方が身につくようにしたい。1年時は、一斉指導を中心に基本的な学習方法や学習習慣を身につけさせ、各単元の後半には課題を選択する学習（技能チェックから課題・練習方法を選択して取り組む学習）を取り入れ、課題解決学習の学び方を身につけさせたい

と考えている。２・３年時は、安全面で特に注意が必要な武道や水泳等を除き、生徒自らが主体的に進める課題解決学習を主に学習を進めたい。また、種目によってグループ、ペア、個人等学習形態を工夫しながら、互いに励まし合いながら取り組ませたいと考えている。

イ 生徒の学習意欲を高める課題づくりや課題追究について

学年の発達段階に応じて、課題をつくる力をつけていきたいと考えている。課題づくりで大切なことは、技能の高まりの全体像の理解とその中での現在の自分（自分たち）の位置付けの把握だと考えている。そこで、全種目において、技能の高まりの一覧表と技能チェック表（ゲームチェック表）を準備し、課題づくりの一助としたい。特に、１年生段階では、生徒たちの反省をまとめ、教師側から課題と練習方法を提示し、技能チェックから自分たちに適した課題の選択をさせ（課題選択学習）、課題づくりの力を段階的につけていきたい。また、バスケットボールやバレーボールのようなチームスポーツの場合には、グループの課題と個人の課題の２つを持たせ、「チーム力を高めるために（グループの課題）、自分はどんな力をつけるのか（個人の課題）」を考えさせていきたい。陸上競技のような個人種目については、グループの課題をなくし、個人の課題を追究させていきたい。そして、生徒個々が、個別の運動の学習を自分自身の問題として自覚し、能動的に学習が進められるよう、１時間の授業の中で必ず以下の場面を設け、それぞれ自己決定させていきたい。

１．自己を分析する場面（自己評価、相互評価、技能チェック、ゲームチェック、友達のアドバイス、教師の助言等）
２．自分に合った課題を見つける場面（技能の高まり表、課題例と練習方法一覧、技能チェック、ゲームチェック等）
３．課題に合った練習方法を見つける場面（課題例と練習方法一覧、実技教科書等）

② 個に応じた学習活動の展開

ア 個人の課題に応じた練習の場の確保

陸上競技のような個人種目において、多様なレベルにある生徒たちに「同じグループだから」という理由から、同じ練習に取り組ませることがほとんどであった。これでは、個々の技能向上にはつながらず、練習のための練習に終わってしまう。そこで、生徒一人一人の課題に応じた練習の場をできるだけ多く設定し、意欲を高めていきたいと考えている。

イ 生徒理解からの意図的な関わり

また、生徒一人一人の存在を大切に、「個」を意識した授業を展開するために、授業観察や授業後のノートチェックから、以下の点で気になる生徒を選び、意図的に関わり、積極的に支援したい。

１．自分の力をうまく分析できない生徒。	
２．課題・練習方法をうまく考えられない生徒。	
３．技能のつまずきがみられる生徒。	４．意欲が感じられない生徒。
５．存在感の薄い生徒。	６．周囲とうまく交われない生徒

ウ 個を認める場の充実

ペア学習等を通して、互いに見合い、認め合う場をつくっていきたい。また、教師が一人でも多くの生徒のすばらしい点や頑張った点を見つけるように

努め、全体の場へ返していきたい。

③ 学習形態の工夫

種目によってグループ学習、ペア学習等学習形態を工夫しながら、互いに励まし合いながら取り組めるようにしたい。

(2) 意欲の向上につながる支援と評価の工夫

① 指導と評価の一体化

生徒に提示した観点別評価内容と判定基準を定めたチェック表を使い、評価計画に基づいて、個々の生徒の様々な面に目を向けたい。この際、１時間の評価項目は１ないし２とし、単元を通して全観点を評価したい。また、生徒と同じ判定基準をもとに評価することにより、生徒の自己評価と教師の評価の一体化を図りたい。また、規準に達しない生徒には、積極的に支援をしたい。

② 多面的な評価活動

自己評価、相互評価（ペア学習、グループ間相互評価）、目標到達度評価等、多多面的な評価を継続的に行い、個々の意欲を高めるとともに確かな力をつけさせたい。

③ 評価規準の提示

各観点の評価規準を生徒に提示することで、教師と生徒の評価のズレを少なくしたい。また、評価項目を目標に活動させることで、授業内容の高まりも期待したい。

(3) 選択制授業における支援のあり方

① 学習のねらいや方法の理解

オリエンテーションで、十分に時間をとり、自己の能力・適性、興味・関心にあった種目を選択させるとともに、選択制授業のねらいや意義、学習の進め方をよく理解させるとともに、授業の初期の段階で学習の仕方や学び方をしっかりと身につけさせたい。

② 学習ノートの工夫

個人ノートを持たせ、毎時間の課題（頑張ること）を明確にしたい。また、友達の頑張っている点や上達した点に目を向けさせ、アドバイスし合うことで、共に高め合う雰囲気がつくれるのではないかと考え（ペア学習による友達からの一言）、毎時間の記録やノート整理には、時間を要するが、生徒個々の意欲向上につなげるために充分な時間をとりたい。また、毎時間個人ノートに目を通して一言を添え、個々の頑張りを認めていきたい。

(4) その他

① 基礎・基本の定着について

各観点ごとの評価規準を生徒に提示し、それを目標に行動させるとともに、自己評価活動を通して、各自の定着度を確認させたい。教師側でも同様の内容で評価したい。また、前述したとおり、学習過程や教材・教具、評価方法を工夫することで定着を助けたい。